

第40回土木計画学研究発表会(秋大会):2009年11月21日~23日(金沢大学)
セッション討議内容の記録

セッション名: 鉄道計画(4)	
日付: 11月23日(月)曜日、セッション時間: 15:00 ~ 17:00	
司会者名(所属): 高津 俊司	
討 議 内 容	セッション全体: 鉄道整備事業の評価について、台湾新幹線、韓国高速鉄道、リニア中央新幹線の整備効果、アジアの都市鉄道についてBOT手法の評価などの発表、質疑が行われた。空間的応用一般均衡モデル理論の詳細な議論よりも、主に今後の適用の課題、発展の方向などの討議が行われた。最後の発表は、留学生による英語の発表であったが、質疑も英語で活発に行われ、今後の研究発表会における新しいスタイル・分野を示唆するものと思われる。
	(発表番号) 発表者名(所属): (320) 土谷和之(三菱総合研究所) 空間的応用一般均衡モデルによる台湾高速鉄道の整備効果分析について、モデルの選択、航空との機関選択、二酸化炭素排出量の予測などについて討議された。
	(発表番号) 発表者名(所属): (321) 宮下光宏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング) 空間的応用一般均衡モデルによる韓国高速鉄道及びリニア中央新幹線の整備効果分析について、モデルの前提条件、航空との機関選択、駅位置やルートとの関連、二酸化炭素排出量の予測などについて討議された。
	(発表番号) 発表者名(所属): (322) Hazel PALAPUS(東京工業大学) アジアの鉄道整備事業におけるBOTなどの民間セクターの活用事例について発表があり、日本の企業の参画の可能性、リスク回避の手法などについて討議された。